

## 双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会 ワークショップ 第1回 報告書

- 日時 平成27年8月26日(水) 13時00分から16時00分
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ 「復興まちづくり計画(第一次)に基づく事業計画(実施計画)や復興まちづくり長期ビジョンをふまえて、産業の復興、就業者支援、事業・営農の再開への取組やふるさとのまちづくりなどについて、現在の課題や解決策を考える」

### ■ワークショップ成果の発表

#### ◇グループA

部会員：伊藤、木幡、高田、高野、西原、松本

#### 発表の要点：～開拓(パイオニア)は安心から～

- 風評被害が続いているので、風評被害をなくす国民的な教育が必要だ。
- 福島情報が県外に発信されておらず、全国の人が福島の実情を知らない。
- 自分の世代で戻ることは難しく、将来の世代が住もうと思ってもらいたい。
- 除染や廃炉を早く進めて、安心して仕事と生活ができるようにしてもらいたい。
- 手仕事を通じて働く気持ちを取り戻すりハビリのような就業機会を用意してほしい。

### 【カードに書かれた意見】

#### ☆現状の課題

##### 《食べ物》

- 自分は県内産の食品を買うようになったが、県外の人はまだ福島産を買わない。
- 県外では、福島のアンテナショップで応援する人が買ってくれるが、普通のスーパーでは買わない。

##### 《風評被害》

- 福島情報は県内ではたくさん流れているが、県外では流れていない。
- 放射線に対する思い(感覚)が昔のままで、次の段階へ進んでいない。
- 福島出身の女性を嫁にもらうのはいかがかという偏見がある。
- すべての国民に風評被害をなくす教育が必要である。
- 全国に放射線の状況をもっと流してほしい。

### 《双葉町に戻ることにへの思い》

- 生きる目標を見つけることができなかった。
- 中間貯蔵施設の問題のため、帰るのをやめてしまう人もいる。
- （津波被災地域では）すべてが流されたので、双葉にこだわりはなく、近くの風土が合うところがいい。
- 戻りたい気持ちはあるが、現状は難しい。
- 事故後の2代目、3代目の人が住もうと思ってもらいたい。
- 年配の人は戻りたい人が多い。

### ☆解決するためには

#### 《商売》

- 復興住宅に入り共同店舗をやるのはお金の問題が大きいので、建物を整備してもらい、賃料も補助してほしい。
- 開拓の精神で、新しいチャレンジになる。

#### 《放射線問題》

- 除染を早くして、戻りたい人を早く戻す。
- 安心して仕事ができるように、除染を早くしてほしい。
- 廃炉を早くしてほしい。
- 除染、中間貯蔵など、できることを早くやる。これは開拓だ。

#### 《居住問題》

- 人が戻れる体制づくりをして、まず一人二人戻るようにする。そして人の輪を大きくする。
- 最初は避難先地域に住みながら、双葉に通う二地域居住を始めてみる。
- 知人が戻れば自分も戻る。
- 避難が長期化すると分かった段階で、土地探しを始めた。避難者は、自由が利かない。

### ☆解決した後

#### 《個別の悩み》

- 当分は世帯人口が少ないので、商売（スーパー）が成り立つか不安だ。
- 避難者に働く喜びを知ってもらいたい。
- 補助がないのでは？

#### 《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 商工会で事業の再開を進めている。長期ビジョンで商売できるような環境整備を行ってほしい。場所なども、早く双葉に帰れるような環境づくりをしてほしい。
- 避難者の精神的なケアとして、年配の方でもできる手仕事（草むし

り等)を提供してはどうか。また、手仕事で商品を作ってネット販売を行うのもよい。働く意欲を持たせて、給料をもらう楽しみを与えるリハビリのような仕事を用意してはどうか。

- 「安心」とはなにかをしっかりと教育して欲しい。
- (長期ビジョンに) いろいろなゾーンがある。商売ができるところもあるので、早く環境づくりをして欲しい。商店街も考えていくので、町も考えてほしい。
- 「除染を早くして戻れる環境が必要」→「誰かが戻れば皆戻る」→「インフラ整備」といういい流れを作ってほしい。
- 町にお願いしたいのは、避難している人の精神的な手当て。特に働く喜びを皆に与えて欲しい。

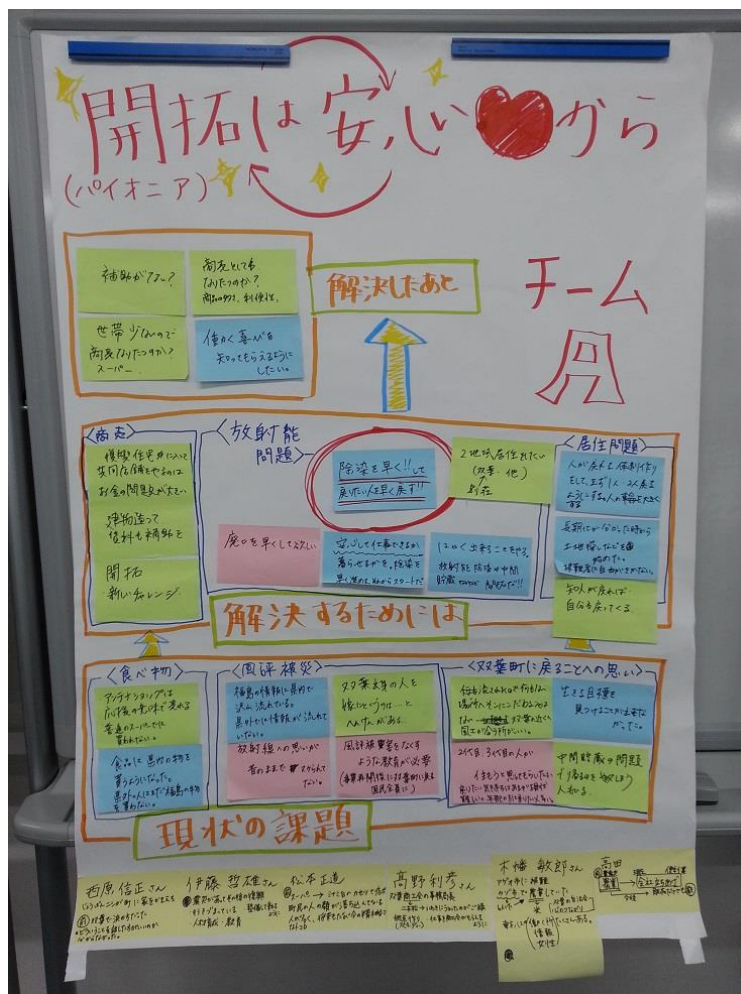
グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



## ◇グループB

部会員：小川、齊藤、澤上、真柄、吉田（晴）、吉田（岑）

### 発表の要点：～ピンチをチャンスに！！～

- 現状は社員を募集しても人が集まらない。
- 高速インターなどの道路混雑により通勤が可能だろうか。
- 農業は技術的には可能だが、消費者が福島産の農産物を買ってくれないので、見せる農業や汚染土壌における栽培実験等の試験場とする。
- 復興にかかる長い時間を考えると次世代の問題だろう。
- 中間貯蔵施設や産業廃棄物再処理工場を受け入れる。
- 再生可能エネルギーや新エネルギー産業の実験場とする。
- 働く人のためのコンビニや弁当屋など生活支援ビジネスに取り組む。
- 食品ではないビジネスを考える。
- 町外拠点に共同店舗があればよいが、経営が難しそうである。

### 【カードに書かれた意見】

#### ☆現状の問題点

##### 《無縁墓の扱い》

- 双葉から引っ越していった人のお墓をどうするのか。

##### 《人が集まらない》

- 事業を興して社員を募集しても、人材が集まらない。
- 中間貯蔵施設があるところで働きたい人が出てくるか。

##### 《交通混雑》

- 双葉へ通うことが難しい。
- 復旧が進むと高速道路もインターチェンジが混雑する恐れがある。

##### 《農業》

- 福島産というだけで買ってもらえない風評被害の現実がある。
- 農業は技術的に可能だが、農産物を購入してもらえるだろうか。
- 復興拠点での農業の可能性は短期的にはないが、長期的にはあるかも。

##### 《復興拠点》

- 中間貯蔵施設や廃炉が進む風景は、もはやふるさとではなくなる。これを子供たちにどう伝えられるか。
- 復興にどれくらい時間がかかるかわからない。30年から40年かかるとしたら、自分たちの世代では復興はできない。
- 4%という狭い地域で、産業復興拠点にできるのか。

## ☆これからの展開（出稼ぎの町になるのでは）

### 《産業施設の誘致》

- 人は入れないが場所はあるので、産業廃棄物の再処理工場など、産業的にいらぬものを受け入れる。
- 資材置き場になるのではないか。
- 国が受け入れ先の確保で困っている廃棄物を受け入れれば、放射性廃棄物への見方も変わるのではないか。
- 再生可能エネルギー産業や新エネルギー産業の実験場とする。
- 研究施設を誘致する。
- 汚染した土壌で農作物を生産した場合にどうなるかテストする場とする。
- 汚染水をろ過するフィルター。

### 《生活支援サービス》

- 新しい場所で、できるものとできないものがある。
- 食品ではないものでビジネスを考える。
- 宿舎の人を対象にしたコンビニエンスストアやお弁当屋。
- 単価の高い商品を低コストで生産する施設。
- 事務所は置きたい。
- 行政からの資金支援が必要である。

### 《町外拠点》

- 町外に共同店舗があればよいが、やりくりできるか疑問が残る。

### 《カード記載以外の補足説明・感想等》

- もう少し復興のスピードを加速して欲しい。そうでなければ子供へのバトンタッチが難しい。一日も早い復興を願っている。
- （作物を）普通に作って販売するのは難しい。花など観賞用ならいいのではないか。双葉町いっぱい花を植えたりしたらどうか。
- 産業がないと人が集まらない。人が集まってこそ復興に繋がる。
- 前向きに進んでいきたい。
- 何がなんでも、双葉町だけでなく汚染された地域全部を安心して住めるような環境に取り戻して欲しい。それからいろいろなものが進んでいくと思う。

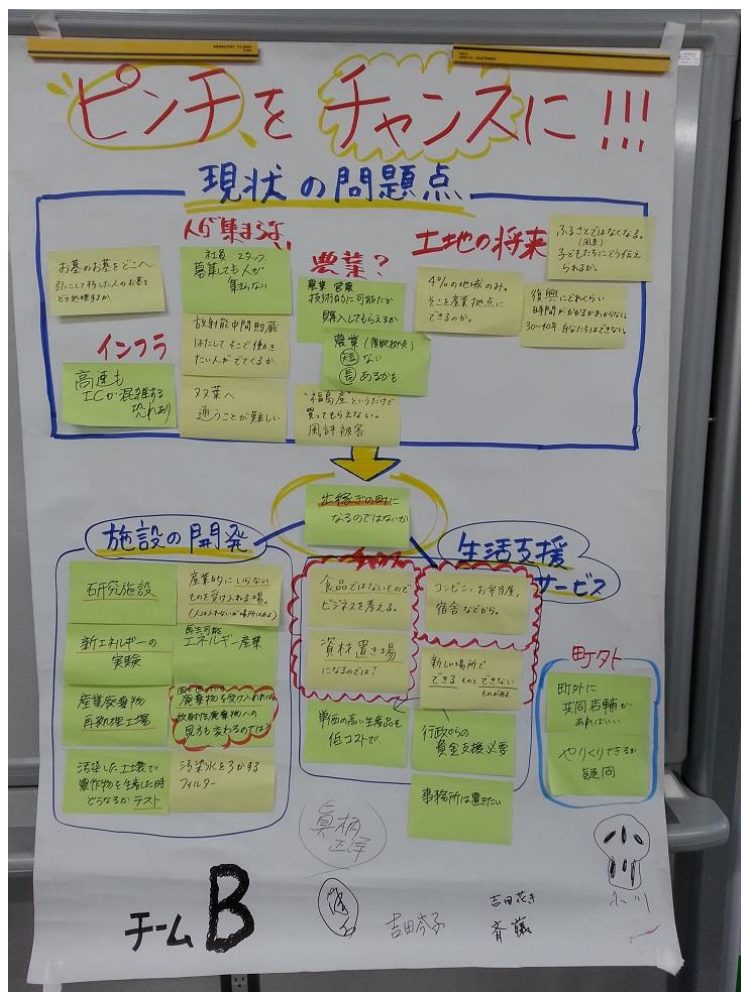
グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



## ■今回の部会のまとめ

○各班の発表を受けて、コーディネーター金子氏が全体のまとめを行い、次のとおり説明した。

- 農業と食品の風評被害が甚大である。
- 人材を募集しても集まらない。
- いったん働く意欲を失ったが、働き始めることで立ち直ることができた。
- 手仕事を通じて働く気持ちを取り戻すりハビリのような仕事を準備してほしい。
- 除染を加速して、安心な地域であることのイメージを早く全国に発信する。
- 国民の風評被害をなくす教育も必要だ。
- 安心して住める環境になったら、当面は2地域居住から始めて、コミュニティを再生する。
- 復興産業拠点は中間貯蔵施設や産業廃棄物再処理工場などのほか、新エネルギー、再生可能エネルギーなどの施設を誘致することになるろう。
- ここで働く人たちの生活を支援するコンビニや弁当などの生活サービス産業から事業を始める。
- 農業も発想を転換して、見せる農業や、実験農業に取り組む。
- ピンチをチャンスに変えて、開拓者精神で取り組もう。

## ◇学識経験者 間野先生からの講評

みなさんが意見をどんどんだしていることに驚いた。ふるさとの町の拠点づくりは、たいへん難しい問題で、最初はたくさんの課題や問題も出ていたようだ。後半では、新産業で起こすとか、農業も新しくするといった、前向きな意見が出てきたことは大きな成果と思う。これらのアイデアが復興産業のスタートになるのではないか。

双葉町の町民がどう事業再開し、就労再開していくのかが大事だ。これから具体的な議論を重ねていく中で、当面どうしていくのかを考えていきたい。長期ビジョンにも書かれているように、双葉町の中心部も活動ができる拠点にしていこう。



【ワークショップのまとめ】

